

ふるさと講座自然系第3回目を実施しました。 ～オジロワシ・オオワシ観察会～

2月14日(土)参加者2名で実施しました。講師は、野付エコ・ネットワークの河口真梨さんです。講師より、オジロワシ・オオワシについての説明を受けました。本日の観察場所である風蓮湖では、伝統的な氷下待網漁との関係により多くのワシが飛来する地域となっていること、さらに近年ハクトウワシが、飛来するようになりバードウォッチャーを楽しませているとのことでした。

雪の降る中の観察となりましたが、氷下待網漁の作業中だったこともあり、近くでオジロワシ・オオワシを観察し、鳴き声もよく聞くことが出来ました。オオワシは、5千羽近く生息しており、風蓮湖では、多い時にはその内の1割の500羽近く確認されているそうです。また、ワシ類の他にもカモ類やハギマシコの群れを観察することが出来ました。



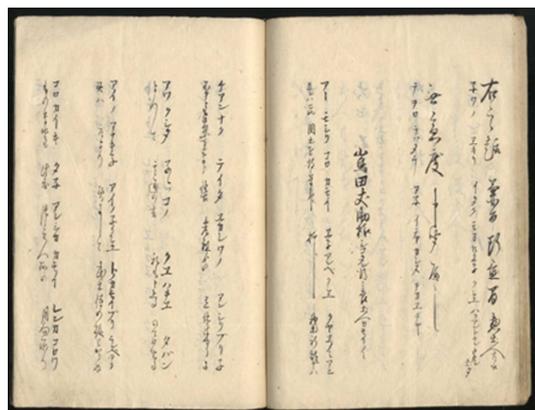
「加賀家文書」から見る近世幕末に行われた「カムイノミ」その2

先月号からの続きとなります。

安政4年(1857)蝦夷地調査で根室に来ていた佐倉藩の島田丈助ほか4人は、色丹島へ行く予定でしたが、悪天候のため10日あまり足止めされていました。根室場所支配人善吉と通辞加賀伝蔵、船頭吉五郎は相談しアイヌへ「カムイノミ」(神への祈り)を申し付け、天候の回復を祈願しました。以下は、「カムイノミ」の唱言(和語・アイヌ語)が加賀伝蔵によって記録されたものです。

「アー モシリ コロ カモイ エ子アンベクシュ クヤ エノミ アニ ケアンナク テイタ エ
カシワノ アン シリブリ子 アワクシタ 子トツコノ クエ ハヲエ タバン

是はこれ国土を持守神抑、我等祈部と申は、不申とも御察可有ながら、往古先祖よりの有仕来りによって、其通の言私も申上るので御座候。



アイノ アナキ子 アイノ 子クシュ トノカモイ ブ
リ ランベテク コロ カイキ タ子 アレシカ カ
モイ レンカ コロワ モシリ テキサマケ アンル ク
シテ チコロ コタン テキ子コロ シコタン モシリ
バツクノ アトエ トモトエ レブン クニ エト コ子
ルエ タバン

夷は元より夷にして武士侍の振わからぬものなれども此度御主人様の用向承り国中所々の道越来て我等持地枝領分



しこたんしままで海渡り之出船と定る前日にて候なり。
 タンベ クシュ アシリ ラム イサマアエノ ク子
 ヤツカエキ レツハ カモイ ツトキ ヲクテ ツコ
 バ シユイシユイ キンマ カモイ ツトキ ヲクテ
 ツコバ シユイシユイ

依之、新たに祈念言訳わからぬ夷私なれども、沖の神
 え盃をとりて神酒箸振捧る、山の神にも盃をとりて神酒
 箸振捧る。

クキ ルエ アナキ子 トノカモイ ヲーツビ ヒリカ レラ ヲシコニワ シコタン モシリタ
 マワー シノ、 シレバレ クニ子 クル カシケ アシツカマ エンコレヤ タンベ クシュ カ
 モイ エコトキ ツコエメー アツトキタバ ヲカイ アンナ エエエエ・・・



私の致方に候間武士侍様の乗船よき風与ひられて、
 しこたんしまえ無二別条一着するよふに、我等身の上
 御守り被下かし。これに よって神に上たる酒盃の御下
 たを一盃をば頂有るなり。」

アイヌ語の和訳は、加賀伝蔵が行ったものですが、
 武士侍の仕来りは分からないが、私たちの領分に来
 て色丹島まで無事に行ってほしいので、沖の神と山
 の神に神酒箸（イクパスイ）を振り祈願するものと
 訳しています。和人がアイヌの文化を理解し取り入

れた貴重な資料だと思われます。今後は類例を探し調査研究を続けたいと思います。

加賀家文書館のアイヌ衣服レプリカ着用体験について

令和7年度アイヌ政策推進交付金を活用し、加賀家文書館が所蔵
 するアイヌ衣服のレプリカを制作しました。アイヌ文化を身近に親
 しんでもうおうと着用体験用に制作したもので、大人用と子ども用
 があります。館内見学も含めてぜひ、ご来館ください。



別海町郷土資料館だより No.320
 発行日 令和8年3月1日
 発行所 別海町郷土資料館
 別海町別海宮舞町 30 番地
 電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

編集後記 暖かい日が続き、風蓮湖の結氷の有無が氷下
 待網漁やオジロワシ・オオワシの渡来に影響があるので
 はとと思っていましたが、特段問題はなかったようで、多
 くのワシたちが飛来していました。大きく優雅な姿に
 は、いつも目を奪われます。